

「幻の門」を出る出陣塾生



幼稚舎生の慰問画

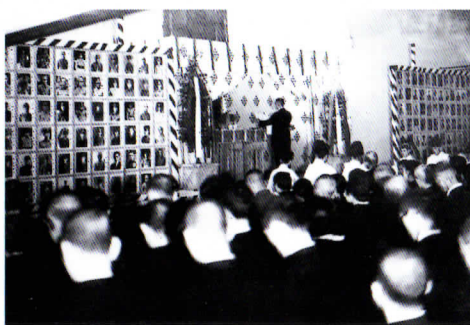


慶應義塾大学校旗

やがて入営入団の日が近づいたので、塾では十一月二十日、大講堂で戦没塾員慰霊祭を営み、二十二日には稻荷山の下に臨時に設けた大会場で、壮行会を行った。式が済んでから、塾生等は、大講堂の前の広場に、送る者と送られる者と相対して整列し、塾の様々の歌を歌ひ、また、肩を組み、前後左右に波のやうに揺れ動きつ、対校試合に勝つた時の歓喜を歌ふ歌を合唱した。それが終つて、塾生は四列縦隊を作つて坂を降りて行つた。私は教職員の人々と共に正門の傍でそれを見送つた。門を出た塾生等は、三田通り、寺町、白金台町と行進して福澤先生の墓参をした。私は門で最後の塾生を見送つてから更に自動車で行進の跡を追ひ、大崎の常光寺の先生の墓の前で再び多くの塾生と会つて別れの挨拶をした。それを終へて午過ぎ塾へ還つて来た。数時間前の熱情的な光景に引きかへ、校庭は空しく広く、人影は疎らであつた。墓参を終へた学生の中には、なごりを惜んで、また山の上に帰つて来たものもある。今別れて来た許りの其の学生等に会ふことが、遠い旅から帰つて来た人々と再会したやうに懐しく思はれた。(小泉信三『海軍主計大尉小泉信吉』)



野球部員のサインボール



慶應義塾戦没者慰霊祭

#### 4. 「塾生出陣」の日

「学徒出陣」に当たって、様々な行事が行われた。神宮外苑競技場での出陣学徒壮行会(10月21日)は有名だが、その5日前に野球の「最後の早慶戦」があり(同16日)、体育会各部もそれぞれの「最後の早慶戦」を行った。徴兵検査や家族との時間を過ごすため帰郷して参加しなかった者も多い。義塾では、学生生活を最後まで全うすることを塾長名で呼びかけた(同19日)。そして陸軍入営・海軍入団直前に、日吉で壮行会・運動会(11月19日)、三田では音楽会(同17日)、戦没者慰霊祭(同20日)を催し、最後に塾生出陣壮行会(同23日)を三田山上で挙行して「幻の門」から出陣塾生を見送った。

##### 慶應義塾大学校旗 昭和15(1940)年頃

戦時体制下では国の指導に基づく学校行事が増え、校旗を手にした旗手を先頭に分列行進を行う機会が増えた。この旗は、戦時下の諸行事に用いられ、神宮外苑競技場における出陣学徒壮行会、三田で行われた塾生出陣壮行会においても、行進の先頭に翻ったものである。

##### 野球部員のサインボール 昭和18(1943)年 水谷吾弘氏寄贈

日吉の野球部グラウンドの管理人が、軍隊に入る野球部員に署名してもらったボール。武運長久を祈るために神棚に供えられていたため、表面が黒ずんでいる。清水謹之助、田村忠、大日向正明、直木元造、片桐潤三、村上昌司郎、矢野鴻次、白倉晃一郎、山本英雄の9名の署名があり、このうち山本はレイテ沖海戦において、田村は陸軍の特攻で、清水は中国大陸で、それぞれ戦死した。

##### 慶應義塾戦没者慰霊祭 昭和18(1943)年11月20日

三田の大講堂において行われた慰霊祭。斎主は高等部教授で佃島住吉神社第11代宮司でもあった平岡好道が務めた。平岡は後に次のように回想している。「その時読んだ祝詞が手許にあるので出して見ると、英霊総数二百四十四柱。その氏名を全部奏上した。こんな長い祝詞を読んだのは後にも先にも例がなかった。」(『塾』昭和45(1970)年4月号)

##### 幼稚舎生の慰問画 昭和18(1943)年 慶應義塾幼稚舎蔵

幼稚舎生が、軍人の慰問のために描いた画。裏面には幼稚舎の住所や氏名が書かれている。現存する15枚は何らかの理由で送付されずに残ったものと思われる。学徒出陣を描いた画の他に、戦闘機、軍艦の戦闘シーン、自宅からの風景など、画題は多様で、文章が添えられているものもある。

##### 「幻の門」を出る出陣塾生 昭和18(1943)年11月23日 清原信二氏寄贈

慶應義塾としての壮行会は、三田山上の稻荷山広場で行われた(現在の大学院校舎付近)。塾長訓示や壮行の辞に続き、大講堂前で応援歌などの大合唱を行った後、出陣塾生は隊列を組んで、「幻の門」と呼ばれていた正門から三田を後にしていった。慶應義塾において学徒出陣が「幻の門」と共に記憶される所以である。これは列の先頭が拳手の礼をしながら、まさに門を出た時の写真である。